

令和4年度 伊南福祉会本部事業報告

(1)本部運営

国は、少子高齢化の克服を目指して、高齢者、障害者、子どもなどの分野を超えた「地域共生社会」の実現を目標に掲げています。様々な福祉施設を運営する伊南福祉会にとって、大きな役割が期待されているところです。

しかし、福祉人材確保の難化、コロナ禍における利用状況の悪化、燃料費を始めとするコスト上昇など、福祉事業を取り巻く経営環境は厳しく、法人全体として苦しい運営を余儀なくされた1年間でした。

このような中で本部として、以下の法人全体の取り組みを行いました。

① 職員の処遇改善と給与制度見直し

国の介護職員処遇改善支援補助金を活用した給与アップを継続するとともに、職員が能力や成績に応じた給与を受けられるよう給与制度の見直し、設計を行った。

② 働きやすい職場環境づくり

職員の介護・子育て支援、ワークライフバランス確保などを目指して、「職場いきいきアドバンスカンパニー認証」を取得した。

また、ハラスメント対策を担保するために顧問弁護士と契約した。

③ 経営分析

経営コンサルタントの助言のもと、月例の法人経営会議で経営指標、経営課題や対応策を確認している。

(2)法人全体の経営状況

新事業の運用開始、報酬の増加改定などでサービス活動収益の増加要因は大きかったものの、コロナ禍のなかで利用率は総じて低迷し、サービス活動収益は1.7%の増にとどまりました。

逆に、処遇改善に対応して人件費が3.4%の増となったことをはじめ、燃料費高騰なども相まって、サービス活動費用は4%の増となりました。

この結果、法人全体としての当期資金収支差額は、約1,800万円のマイナスとなっています。

次期以降は、

- ① コロナ禍からの社会活動回復が期待される中で利用率を早期に回復させること
- ② 職員への処遇改善は維持しつつも人件費総額を適正な水準に納めること
- ③ 離職率を抑えて育成につなげることで人材難を乗り切ること

など、経営課題と目標を明確にして取り組みを行ってまいります。

令和4年度 観成園事業報告

観成園は長期入所定員 110 人、短期入所定員 10 人の全室個室ユニット型の特別養護老人ホームであり、「安心・笑顔・その人らしさ」を理念とした介護事業を進めています。

(1) 利用状況

長期入所の稼働率(定員に対する入所者数の割合)は 96.4%(前年度 97.0%)、短期入所は 90.8%(前年度 91.6%)といずれも前年度実績を下回り、コロナ禍による入所の手控えもあって依然として厳しい状況が続いています。平均介護度については 3.7 とほぼ前年度と同じでした。

(2) 収支状況

収入面では、総収入額が 5 億 9,196 万円、前年度比 224 万円、0.4%の減となりました。利用状況が前年度に比べ落ち込み、介護保険事業収入が前年度比 0.7%の減となったことが主な原因です。

支出面では、総支出額は 6 億 255 万円で、前年度比 1,766 万円、3.0%の増となりました。

増加の理由としては、人件費 1,169 万円、燃料費の急激な高騰により水道光熱費 815 万円、人材紹介会社手数料 85 万円、シルバー人材センター等への委託費 193 万円それぞれ増加したことが主な原因です。投資的な部分では、昇降式介護浴槽を更新しました。

人件費は職員数が増加したこと、また、令和 4 年 3 月から実施している処遇改善手当支給により前年度比 3.1%増、人件費率は 66.4%(前年度 64.1%)となりました。

以上の結果、収支全体では当期資金収支差額で 1,058 万円余の赤字決算となりました。

今後も健全で持続可能な施設運営に向けた経営努力を続けるとともに、入居者が安心して家庭生活の延長線上の暮らしができるよう質の高い介護サービスの提供に努めて参ります。

令和4年度フラワーハイツ 事業報告

老人保健施設は、介護保険法の中で、在宅復帰、在宅療養支援施設として位置付けられ地域包括ケアの中核としての機能を求められています。当施設は、多くの専門職が在籍しているのが、大きな特徴となっており、要介護状態になってから看取りまで多職種協働にてご利用者の支援を行ってまいりました。

新型コロナウイルス感染症の感染は、10月・1月にクラスターが発生し感染対策を行いつつ終息に向けての対応を行いました。行事、レクリエーション、面会、施設内の業務、利用者支援は制限がある中で工夫しながら行ってきました。

利用状況においては、長期入所は、前年度比2.1%増。短期入所は、前年度比1.0%減（蔓延防止・感染対策の影響）通所リハビリテーションは、前年度比6.2%減（休業・短縮営業のため）訪問リハビリテーションは、前年度比9.4%減（感染対策・流行時の受け入れキャンセルの影響）障害者サービスは前年度比14.4%減（受け入れ制限の影響）、居宅介護支援事業は、前年度比1.0%減となりました。

収入全体では、事業活動収入は前年度比2.9%増の6億1009万円（うち1800万円は補助金）。入所は、前年度比3.0%増の3億4920万円。在宅系のサービスの短期入所、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの収入は、前年度3.8%減の1億2879万円となりました。

支出においては、事業費支出は、総額9717万円と前年度比で8.1%増となりました。大きな支出では、水道光熱費前年度比30%増の1941万円。固定資産関連支出は、特浴の更新、パソコン関連物品の導入・更新、エアコンの入替が主な支出となっています。収入増、経費削減に取り組みましたが、前年度より赤字幅は縮小しましたが1300万円ほどの赤字決算となりました。

施設も開設30年を迎え、施設の老朽化、冷暖房設備、ボイラー等の大きな設備の更新が必要な時期となっています。計画的な設備更新計画による、設備・機器の更新を行ってまいります。経営コンサルタントの導入により、利用者の数的管理。営業の工夫を行ってまいります。収入増の取組に努めるとともに、経費削減を図り、経営の安定を図り老人保健施設としての役割を果たしてまいります。

令和4年度 順天寮事業報告

生活保護受給者で居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行う施設である順天寮では、令和4年度は4つの重点項目を年度当初に掲げて取り組んでまいりました。

- (1) 限られた資源（人・施設・金）の中での最適な支援
 - ① 事業を常に収支ベースで検討する
 - ② 業務の標準化、合理化のために、情報システムの運用開始
 - ③ 改築に向けた調査・研究
- (2) 人材確保・人財育成
 - ① 職員を育成できる環境（育成プログラム）の整備を行う
 - ② 人財確保（エージェントに頼らない人材確保）
- (3) 現状サービスの見直しと改善
 - ① 個別支援の流れ（PDCA 循環）の改善
 - ② 日中活動の見直し
- (4) コロナ対策
 - ① コロナ渦にあっても工夫して楽しい寮生活にする

しかしながら、8月から9月にかけて、非常に感染力の強い新型コロナウイルス感染症オミクロン株の流行に巻き込まれ、利用者38名、職員21名の集団感染となった影響により、当初の重点項目についての取組みが滞る結果となりました。

経営的には、退所者が増加したものの、新規利用者確保に努め、年間では昨年並みの利用率が確保できました。また、国や日本財団等補助金申請を積極的に行い、総額で730万円ほどの採択を受ける事ができ、福祉避難所の整備の一環として、EV車・給電器の購入、施設内のLED化工事等の整備を行いました。

今年度も500万円の施設整備積立金を行ったうえで、1,314万円の当期資金収支差額を計上することができました。

令和5年度は、順天寮スローガン「利用者さんの幸せとは？ 共に考え、共に歩もう！」を掲げ、人材育成、改築、情報システム運用、日中活動プログラムの4つのプロジェクトを重点に、組織・施設の機能強化を図りながら、地域福祉の向上に努めてまいります。

令和4年度 指定共同生活援助事業所事業報告

グループホーム事業は、救護施設順天寮の地域移行事業として、日中は主に順天寮の通所事業を利用し、夜間はアパートタイプの個室で居住し共有スペースで世話人が作った夕食を提供している障害福祉サービスで平成29年8月より定員4名から開始し、令和2年度に「ハレルヤ」を開所し現在2棟8名定員体制で運営しています。

昨年の利用者が1年を通して、元気に変わらず継続利用をされており前年比101.7%と安定した事業収入となりました。

当期資金収支差額は1,243,048円の黒字を計上できました。

昨年度より、世話人会議を定期的で開催し、研修や意見交換を図りながら、より良いサービスが継続できるように取り組んでおりますが、職員の高齢化が進み、人材の確保に苦労した1年でもありました。

今後の事業拡大には、世話人の確保が重要であるため、新たな戦略をたてて、人材確保を行ってまいります。

障害福祉サービスや困窮者の地域移行支援に関して、他の事業者との連携や、地域ニーズ把握を行いながら、新しい事業展開も視野に入れ、独立採算で事業が成立できるよう模索を続けてまいります。

令和4年度 伊南訪問看護ステーション事業報告

伊南訪問看護ステーションは、「生きる喜びをチーム力で支える」をミッションとし、在宅を訪問し看護を提供する訪問看護、在宅サービスのマネジメントを行う居宅介護支援、医療的依存度の高い障がい児者や高齢者の通うナーシングデイの3事業を展開しています。

(1) 利用状況

訪問看護は年間訪問件数9,083件となり前年度比7.6%減。医療保険が主にコロナ感染リスク回避のキャンセルが多く前年度比26.9%減、介護保険は5.2%増となっています。

居宅介護支援は、職員が前年度より1名減、給付件数も前年度比19.1%減となっています。

ナーシングデイは稼働率60%。医療依存度の高い利用者が多く安全な運営に心がけるため、初年度は66%の稼働率で設定。おおよその目標は達成できています。

(2) 収入状況

総収入額1億2,274万円、前年度比827万円増、7.2%増。これは訪問看護、居宅介護支援が減少する中で、新事業ナーシングデイの収入1,214万円が加わったためです。

(3) 支出状況

総支出額1億3,029万円、前年度比4,233万円減、24.5%減。前年度はナーシングデイの建設費用がかかったため、これを除くと前年度比2,022万円増、18.2%増となっています。

増加の内訳は、人件費が前年度比1,722万円増、19.2%増で、人件費率は86%となっています。ナーシングデイ職員5人分と訪問看護が世代交代のため手厚い人員体制を整えているためです。

(4) 結果

収支全体では当期資金収支差額で817万円余の赤字決算。活動資金収支差額は31万円余で前年度比2.4%となっています。

(5) 課題と今後の取り組み

経営改善のため、訪問看護の医療保険利用者増加、ナーシングデイの利用者増加、稼働率を上げるため、病院の地域連携室や相談支援員、関係者と積極的に連携を図っていきます。また、訪問看護の世代交代が順調に進むよう育成にも丁寧に取り組み、質の高いサービスの提供に努めて参ります。